

ひろおか こしいたじぞう
広岡の腰痛地蔵

むかし、奈良の広岡町に普光寺というお寺がありました。その六体地蔵さまは、腰痛地蔵と呼ばれていました。お参りすると腰痛が治るといつて、昔からたくさん的人がお参りに行つたそうです。

あるとき、ひとりのおばあさんが、巾着に白いお米を少し入れて、杖をついてお参りに行きました。そして、お米をお供えして、

「どうぞ、治してください」といつて、拝みました。毎日毎日行つては拝みました。でも、腰痛はよくなりません。

とうとうある日のこと、おばあさんは、

「私は腰も痛いし、生きていても用はない。早くお迎えにきてください」といつて拝みました。

すると、六体地蔵さまがあらわれて、

「わかった。さつそく明日迎えにきてやる」とおっしゃいました。おばあさんは、びっくりして、

「明日のこんどのそのこんどで結構です」といました。すると六体地蔵さんは、

「わかった。明日のこんどのそのこんどに迎えにきてやる」とおっしゃったのです。おばあさんは、あわてて、

「明日のこんどのそのこんど、もひとつこんどのそのこんど、またもひとつこんどのそのこんど」といつて、繰り返し繰り返し拝んで、帰つていつたそうです。この六体地蔵さんは願いごとをよくきいてくれるそうです。

おしまい。

原話：『子どもと家庭のための奈良の民話二』

共通語再話：村上郁

